



キット構成

製品番号	製品名
1536160	MAPSIIバッファー

構成成分:

9700774	Affi-Gel MAPS II Binding Buffer
9700775	MAPS™ Elution Buffer
1536166	Protein A MAPS II Regeneration Buffer

作成日 2014/07/03
改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 Affi-Gel MAPS II Binding Buffer
製品コード 9700774, 9700361
整理番号 9700774
供給者の会社名称 バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
住所 〒140-8641 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー20F
担当部門 ライフサイエンス事業部
電話番号 03-6361-7000
FAX番号 03-6361-8480
電子メールアドレス life_ps_jp@bio-rad.com
緊急連絡電話番号 03-6361-7000
推奨用途及び使用上の制限 試薬

2. 危険有害性の要約 GHS分類

GHS分類に該当するデータは得られていない。

3. 組成及び成分情報 化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
塩化ナトリウム	50-100%	NaCl	(1)-236		7647-14-5
グリシン	35-50%	H ₂ NCH ₂ COOH	(9)-77,(9)-80		56-40-6

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

4. 応急措置 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

水で数分間注意深く洗うこと。

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置 消火剤

大火災: 散水、水噴霧、通常の泡消火剤。

小火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、散水。

大火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。

小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。

	大火災：散水、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。
使ってはならない消火剤	この製品自体は、燃焼しない。 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 乾燥砂、黒鉛粉、塩化ナトリウムを基剤とする消火剤のG-1(R)あるいはMet-L-X粉末。
特有の危険有害性	小火災：粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。 棒状注水。 水、泡消火剤、二酸化炭素。 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。 摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼するものもある。 粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。 熱で容器が爆発するおそれがある。 特に密閉環境(建物、荷物用倉庫等)では極めて危険な爆発のおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。 容器内に水を入れてはいけない。 金属火災には水ではなく、密閉法、窒息法消火が望ましい。 消火が不可能なら、周辺を防護してそのまま無くなるまで燃焼させる。 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
特有の消火方法	
消火を行う者の保護	

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

低地から離れる。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境中に放出してはならない。

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように
注意する。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地す
る。

危険でなければ漏れを止める。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプ
ラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。

クロロシランはAFFF耐アルコール性中性発砲消
火剤を使い蒸気発生を抑える。

少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用
いて集め、プラスチック容器に入れゆるく覆いをし、
後で廃棄処理する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、ある
いは覆って容器に移す。

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処
理する。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫
煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流
入を防ぐ。

容器内に水を入れてはいけない。

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策
を行い、保護具を着用する。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止す
る。

取扱い後はよく手を洗うこと。

飲み込みを避けること。

皮膚との接触を避けること。

粉じん、ヒュームの吸入を避けること。

ガスの吸入を避けること。

保管

接触回避

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うた
めに必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はり
を不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属
板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設
けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透し
ない構造とすること。

特に技術的対策は必要としない。

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管す
ること。禁煙。

酸化剤から離して保管する。

冷所、換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を
使用する。

消防法で規定されている容器を使用する。

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないも
のに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
塩化ナトリウム	未設定	未設定	未設定
グリシン	未設定	未設定	未設定

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態
形状
色

固体

固体

白

臭い

無臭

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

引火せず

蒸発速度(酢酸ブチル＝
1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

データなし

燃焼又は爆発範囲

蒸気圧

データなし

蒸気密度

データなし

比重(密度)

1.12 g/cm³ (20°C)

溶解度

水 完全混和性

n-オクタノール／水分配

データなし

係数

自然発火温度

データなし

分解温度

データなし

粘度(粘性率)

データなし

動粘性率

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし。

化学的安定性

通常通りの使用方法では分解しない。

危険有害反応可能性

危険な反応は起きない。

避けるべき条件

情報なし。

混触危険物質

知られている範囲では存在しない。

危険有害な分解生成物

知られている範囲では存在しない。

11. 有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性

データなし

又は眼刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感
作性

データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器毒性(単回
ばく露)

データなし

特定標的臓器毒性(反復
ばく露)

データなし

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性)		データなし
水生環境有害性(長期間)		データなし
生態毒性		情報なし。
オゾン層への有害性		データなし
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。
		上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。
汚染容器及び包装		特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。
		上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報 Marine Pollutant	該当しない。 Not Applicable
	Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
国内規制	航空規制情報	該当しない。
	陸上規制情報	該当しない。
	海上規制情報	該当しない。
	海洋汚染物質	非該当
	MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
緊急時応急措置指針番号	航空規制情報	該当しない。 なし
15. 適用法令		
主たる適用法令なし		
16. その他の情報		
連絡先	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 ライフサイエンス事業部 03-6361-7000	
参考文献	「MSDS Navi」日本ケミカルデータベース株式会社	
その他	この情報は、現在の自社の認識に基づいて作成していますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をするものではありません。また、製品の特性を保証するものではありません。本MSDSは情報提供を目的としていますので、化学物質の安全性の指標としてのみご使用ください。	

作成日 2014/07/03
改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 MAPS™ Elution Buffer
製品コード 9700775, 9700362
整理番号 9700775
供給者の会社名称 バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
住所 〒140-8641 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー20F
担当部門 ライフサイエンス事業部
電話番号 03-6361-7000
FAX番号 03-6361-8480
電子メールアドレス life_ps_jp@bio-rad.com
緊急連絡電話番号 03-6361-7000
推奨用途及び使用上の制限 試薬

2. 危険有害性の要約 GHS分類

GHS分類に該当するデータは得られていない。

3. 組成及び成分情報 化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
クエン酸	50-100%	C6H8O7	(2)-1318		77-92-9
クエン酸三ナトリウム(二水和物)	20-35%	Na3C6H5O7·2H2O			6132-04-3

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし。

4. 応急措置 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

水で数分間注意深く洗うこと。

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置 消火剤

大火災: 散水、水噴霧、通常の泡消火剤。

小火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、散水。

大火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。

小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。

	大火災：散水、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。
使ってはならない消火剤	この製品自体は、燃焼しない。 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。 乾燥砂、黒鉛粉、塩化ナトリウムを基剤とする消火剤のG-1(R)あるいはMet-L-X粉末。
特有の危険有害性	小火災：粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。 棒状注水。 水、泡消火剤、二酸化炭素。 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。 摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。 激しく加熱すると燃焼するものもある。 粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。 熱で容器が爆発するおそれがある。 特に密閉環境(建物、荷物用倉庫等)では極めて危険な爆発のおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。 容器内に水を入れてはいけない。 金属火災には水ではなく、密閉法、窒息法消火が望ましい。 消火が不可能なら、周辺を防護してそのまま無くなるまで燃焼させる。 消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
特有の消火方法	
消火を行う者の保護	

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

低地から離れる。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境中に放出してはならない。

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法
及び機材

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように
注意する。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地す
る。

危険でなければ漏れを止める。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプ
ラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。

クロロシランはAFFF耐アルコール性中性発砲消
火剤を使い蒸気発生を抑える。

少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用
いて集め、プラスチック容器に入れゆるく覆いをし、
後で廃棄処理する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、ある
いは覆って容器に移す。

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処
理する。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫
煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流
入を防ぐ。

容器内に水を入れてはいけない。

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

二次災害の防止策

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策
を行い、保護具を着用する。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止す
る。

取扱い後はよく手を洗うこと。

飲み込みを避けること。

皮膚との接触を避けること。

粉じん、ヒュームの吸入を避けること。

ガスの吸入を避けること。

保管

接触回避

安全な保管条件

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うた
めに必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はり
を不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属
板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設
けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透し
ない構造とすること。

特に技術的対策は必要としない。

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管す
ること。禁煙。

酸化剤から離して保管する。

冷所、換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を
使用する。

消防法で規定されている容器を使用する。

国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないも
のに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
クエン酸	未設定	未設定	未設定
クエン酸三ナトリウム(二水和物)	未設定	未設定	未設定

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態
形状
色

固体

固体

白

無臭

臭い

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

データなし

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

引火点

引火せず

蒸発速度(酢酸ブチル＝1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

データなし

燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧

データなし

蒸気密度

データなし

比重(密度)

データなし

溶解度

水 完全混和性

n-オクタノール／水分配

データなし

係数

自然発火温度

1010℃

分解温度

データなし

粘度(粘性率)

データなし

動粘性率

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

情報なし。

化学的安定性

通常通りの使用方法では分解しない。

危険有害反応可能性

危険な反応は起きない。

避けるべき条件

情報なし。

混触危険物質

知られている範囲では存在しない。

危険有害な分解生成物

知られている範囲では存在しない。

11. 有害性情報

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性

データなし

又は眼刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データなし

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データなし

吸引性呼吸器有害性

データなし

12. 環境影響情報		
水生環境有害性(急性)		データなし
水生環境有害性(長期間)		データなし
生態毒性		情報なし。
オゾン層への有害性		データなし
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。 上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。
汚染容器及び包装		特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。 上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報 Marine Pollutant	該当しない。 Not Applicable
	Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code.	Not Applicable
国内規制	航空規制情報 陸上規制情報 海上規制情報 海洋汚染物質 MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	該当しない。 該当しない。 該当しない。 非該当 非該当
緊急時応急措置指針番号	航空規制情報	該当しない。 なし
15. 適用法令		
主たる適用法令なし		
16. その他の情報		
連絡先		バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 ライフサイエンス事業部 03-6361-7000
参考文献		「MSDS Navi」日本ケミカルデータベース株式会社
その他		この情報は、現在の自社の認識に基づいて作成していますが、記載のデータや評価に関してはいかなる保証をするものではありません。また、製品の特性を保証するものではありません。本MSDSは情報提供を目的としていますので、化学物質の安全性の指標としてのみご使用ください。

作成日 2014/07/03
改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	Protein A MAPS II Regeneration Buffer
製品コード	1536166, 9700703, 9700776
整理番号	1536166
供給者の会社名称	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
住所	〒140-8641 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー20F
担当部門	ライフサイエンス事業部
電話番号	03-6361-7000
FAX番号	03-6361-8480
電子メールアドレス	life_ps_jp@bio-rad.com
緊急連絡電話番号	03-6361-7000
推奨用途及び使用上の制限	試薬

2. 危険有害性の要約 GHS分類

健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2 生殖毒性 区分1B 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(視覚器 全身毒性 中枢神経系) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(視覚器 中枢神経系) 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。
-------	--

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H302 飲み込むと有害 H319 強い眼刺激 H336 眠気又はめまいのおそれ H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ H370 視覚器、全身毒性、中枢神経系の障害 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による視覚器、中枢神経系の障害

注意書き 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)

ガスの吸入を避けること。(P261)

ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)

粉じん、ヒュームの吸入を避けること。(P261)

応急措置

取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
 取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
 保護手袋を着用すること。(P280)
 保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。(P308+P313)
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)

保管

気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)
 特別な処置が必要である。(P321)
 口をすすぐこと。(P330)
 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233)

廃棄

施錠して保管すること。(P405)
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
水	50-100%				7732-18-5
メタノール	35-50%	CH ₃ OH	(2)-201		67-56-1

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし。

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。
 特別な処置が必要である。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 医師の診断、手当てを受けること。
 医師に連絡すること。
 特別な処置が必要である。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

直ちに医師に連絡すること。

口をすすぐこと。

医師の診断、手当てを受けること。

医師に連絡すること。

特別な処置が必要である。

飲み込んだ場合

5. 火災時の措置 消火剤

大火災：散水、噴霧水、一般の泡消火剤。

大火災：散水、水噴霧、通常の泡消火剤。

小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水。

大火災：粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水。

小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。

大火災：散水、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤。

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、耐アルコール性泡消火剤、砂。

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。

周辺火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
この製品自体は、燃焼しない。

周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

乾燥砂、黒鉛粉、塩化ナトリウムを基剤とする消火剤のG-1(R)あるいはMet-L-X粉末。

小火災：粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。

使ってはならない消火剤

棒状注水。

水、泡消火剤、二酸化炭素。

特有の危険有害性

火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱により容器が爆発するおそれがある。

火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。

加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。

摩擦、熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

激しく加熱すると燃焼するものもある。

粉じん又は煙霧は空気と爆発性混合気を形成するおそれがある。

熱で容器が爆発するおそれがある。

特に密閉環境(建物、荷物用倉庫等)では極めて危険な爆発のおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。

大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。

容器内に水を入れてはいけない。

金属火災には水ではなく、密閉法、窒息法消火が望ましい。

消火が不可能なら、周辺を防護してそのまま無くなるまで燃焼させる。

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外は近づけない。

風上に留まる。

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

低地から離れる。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

環境に対する注意事項

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

危険でなければ漏れを止める。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で覆い更にプラスチックシートで飛散を防止し、雨に濡らさない。クロロシランはAFFF耐アルコール性中性発砲泡消火剤を使い蒸気発生を抑える。

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。

少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、プラスチック容器に入れゆるく覆いをし、後で廃棄処理する。

乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法 及び機材

二次災害の防止策

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

容器内に水を入れてはいけない。

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い

技術的対策

安全取扱注意事項

接触回避
衛生対策

保管

安全な保管条件

安全な容器包装材料

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
使用前に使用説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
排気用の換気を行うこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
『10. 安定性及び反応性』を参照。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。
保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。
酸化剤から離して保管する。
特に技術的対策は必要としない。
熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
冷所、換気の良い場所で保管すること。
容器を密閉して保管すること。
施錠して保管すること。
消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
消防法で規定されている容器を使用する。
国連輸送法規で規定されている容器を使用する。
包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
水	未設定		
メタノール	200ppm	200ppm(260mg/m ³)(皮)	TWA 200 ppm, STEL 250 ppm (Skin)

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具	呼吸用保護具	高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
	手の保護具	高熱取扱いで、工程でガスが発生するときは換気装置を設置する。
	眼の保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
	皮膚及び身体の保護具	必要に応じて個人用保護手袋を使用すること。 眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)。 顔面用の保護具を着用すること。
必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。		
9. 物理的及び化学的性質 外観	物理的状態 形状 色	
臭い		白
臭いのしきい(閾)値		無臭
pH		データなし
融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲		データなし
引火点		64° C
蒸発速度(酢酸ブチル＝1)		21° C
燃焼性(固体、気体)		データなし
燃焼又は爆発範囲		データなし
蒸気圧		下限: 5.5 Vol %
蒸気密度		上限: 44.0 Vol %
比重(密度)		128 hPa (20°C)
溶解度		データなし
n-オクタノール／水分配係数		0.904 g/cm ³ (20°C)
自然発火温度		水 完全混和性
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		データなし
動粘性率		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		情報なし。
化学的安定性		通常通りの使用方法では分解しない。
危険有害反応可能性		危険な反応は起きない。
避けるべき条件		情報なし。
混触危険物質		知られている範囲では存在しない。
危険有害な分解生成物		知られている範囲では存在しない。
11. 有害性情報		
急性毒性	類推値 経口	経口 LD50 1400 mg/kg
		混合物の急性毒性推定値が1400mg/kgのため急性毒性(経口)一区分4とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		データなし

眼に対する重篤な損傷性
又は眼刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感
作性

生殖細胞変異原性

発がん性

生殖毒性

特定標的臓器毒性(単回
ばく露)

特定標的臓器毒性(反復
ばく露)

吸引性呼吸器有害性

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)

水生環境有害性(長期間)

生態毒性

オゾン層への有害性

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

汚染容器及び包装

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報
UN No.

混合物の成分の眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性－区分2の濃度合計が35-50%のため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性－区分2とした。

データなし

データなし

データなし

混合物の成分の生殖毒性－区分1Bの濃度が49.9%のため生殖毒性－区分1Bとした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分1(視覚器)の濃度が35-50%のため特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分1(視覚器)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分1(全身毒性)の濃度が35-50%のため特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分1(全身毒性)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分1(中枢神経系)の濃度が35-50%のため特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分1(中枢神経系)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分3(麻酔作用)の濃度が35-50%のため特定標的臓器毒性(単回ばく露)－区分3(麻酔作用)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分1(視覚器)の濃度が35-50%のため特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分1(視覚器)とした。

混合物の成分の特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分1(中枢神経系)の濃度が35-50%のため特定標的臓器毒性(反復ばく露)－区分1(中枢神経系)とした。

データなし

データなし

データなし

情報なし。

データなし

特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。

上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。

特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。

上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。

IMOの規定に従う。
1230

	Proper Shipping Name	METHANOL
	Class	3
	Sub Risk	6.1
	Packing Group	II
	Marine Pollutant	Not Applicable
	Transport in bulk according to MARPOL 73/78,Annex II ,and the IBC code.	Not Applicable
	航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
	UN No.	1230
	Proper Shipping Name	METHANOL
	Class	3
	Sub Risk	6.1
	Packing Group	II

国内規制

陸上規制情報	該当しない。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1230
品名	メタノール
国連分類	3
副次危険	6.1
容器等級	II
海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当

航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1230
品名	メタノール
国連分類	3
副次危険	6.1
等級	II
緊急時応急措置指針番号	131

15. 適用法令

労働安全衛生法

第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)

メタノール

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条)

メタノール 政令番号:36

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

メタノール 政令番号:560 35-50%

消防法
化審法

第4類 アルコール類
優先評価化学物質(法第2条第5項)

メタノール

船舶安全法
航空法

引火性液体類
引火性液体

労働基準法

疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35
条別表第1の2第4号1)
メチルアルコール

16. その他の情報
連絡先

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 ライフサイ
エンス事業部

03-6361-7000

参考文献

「MSDS Navi」日本ケミカルデータベース株式会社

その他

この情報は、現在の自社の認識に基づいて作成して
いますが、記載のデータや評価に関してはいかな
る保証をするものではありません。また、製品の
特性を保証するものではありません。本MSDSは情
報提供を目的としていますので、化学物質の安全
性の指標としてのみご使用ください。